

[Japan. J. Pharmacol. 35, 55 (1984)]

The effect of 6-amidino-2-naphtyl-4-guanidinobenzoate dimethane sulfonate (FUT-175) on experimental glomerulonephritis in mice

HIROICHI NAGAI, HIROAKI YAMADA, NAOSUKE MATSUURA,
NAOKI INAGAKI, TSUKASA SHIMAZAWA*, AKIHIDE KODA

6-Amidino-2-naphtyl-4-guanidinobenzoate dimethane sulfonate (FUT-175) のマウス実験的糸球体腎炎に及ぼす影響

永井博式, 山田博章, 松浦直資, 稲垣直樹, 島沢 司*, 江田昭英

FUT-175 のマウス実験的糸球体腎炎に及ぼす影響について検討した。実験モデルには ddY および A/He 系マウスを用いた nephrotoxic serum (NTS) 腎炎, ウサギ IgG (RGG) を前処置した ddY 系マウスの NTS 腎炎および (NZB×NZW) F₁ マウスの自然発症腎炎を用いた。腎炎の強度はタンパク尿, 種々の血清学的パラメータおよび腎組織の病理像によって評価した。FUT-175 の投与はいずれの腎炎モデルにおいてもタンパク尿および血清学的パラメータの病理学的変化を明らかに抑制したが, 腎組織の病理変化にはほとんど影響を及ぼさなかった。対照薬として用いた cyclophosphamide は ddY 系マウスの NTS 腎炎および RGG 処置した場合の NTS 腎炎の発症や進行に対してさらに明らかな抑制効果を示した。これらの成績から, FUT-175 は補体系を欠損したマウスの腎炎に対しても治療効果を有するものと考えられる。

* 岐阜医療短期大学

[Japan. J. Pharmacol., 34, 9 (1984)]

Effect of N-5' on histamine release from rat peritoneal exudate cells induced by calcium ionophore and ATP

ARAO UJIE*, MASAMI KOJIMA*, JUN NAITO*,
MASAYUKI NAKAZAWA*, AKIHIDE KODA

Calcium ionophore および ATP によって引き起こされたラット腹腔浸出細胞からの histamine 遊離に及ぼす N-5' の影響

氏家新生*, 小島正三*, 内藤 惇*, 中沢政之*, 江田昭英

N-5' の腹腔浸出細胞からの calcium ionophore (A23187 および X537A) および ATP による histamine 遊離に及ぼす影響を検討した。X537A は濃度依存的に histamine 遊離をひき起こし, 2.0 μ g/ml による反応はアレルギー性の反応に匹敵していた。N-5' は 2.0 μ g/ml X537A による histamine 遊離を抑制しなかったが DSCG は著明に抑制した。A23187 も濃度依存的に histamine 遊離をひき起こし, 0.033 μ g/ml による反応がアレルギー性の反応に匹敵した。N-5' および DSCG はいずれも 0.033 μ g/ml A23187 による histamine 遊離を著明に抑制した。一方, N-5' は 100 μ M ATP によって引き起こされる histamine 遊離を著明に抑制した。

以上の成績から, N-5' と DSCG とは異なった様式で histamine 遊離に作用することが推定される。また, N-5' は Ca⁺⁺ 依存性の過程を抑制することによって histamine 遊離を抑制するものと考えられる。

* キッセイ薬品工業(株)中央研究所